

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 7 卷

令和 2 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

2020年度は Covid-19 新型コロナウイルス感染症に開け、新型コロナウイルス感染症と共に終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、多くの人々が犠牲となり、そして暮らしにも深刻な影響をもたらしました。この危機に際して、病に倒れた人々を追悼するとともに、一日も早い感染拡大収束を願うばかりです。

時を同じくして開講予定した「感染管理認定看護師教育課程」は、教育課程に対する期待と責任とを負いながらも多くの試練が立ちはだかりました。大学は、年度当初より石川県内の新型コロナウイルス感染症拡大状況や緊急事態宣言に応じた教育措置を講じていたため、「感染管理認定看護師教育課程」もそれに準じた教育体制を整える必要がありました。7月の「開講式」は Web 会議システムによるオンラインで行い、その後1か月間は遠隔授業のみとしました。8月からは対面授業がはじまりましたが、制限のある中での授業・演習となりました。しかし5週間の実習は臨地にて行うことができ、課程の630時間を32名全員が無事に修了いたしました。ここに、ご支援くださいました多くの機関・関係者の皆様に深く感謝いたします。

巻頭言執筆中の3月現在、新型コロナウイルス感染症に対してはリバウンド（感染再拡大）の防止に向けた調査や対策、ワクチン接種の円滑な実施への支援が求められています。このような社会的なニーズを受け次年度は、「感染管理認定看護師教育課程」の募集増員をいたします。また「認定看護管理者(サードレベル)教育課程」開講も予定しています。この2つの教育課程を通して、県民の健康・福祉の向上のための看護職の卒後教育機関としてまい進してゆく所存です。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
林 一 美

目 次

(ページ)

I. 感染管理認定看護師教育課程	1-5
1. 目的	1
2. 実施状況	1
3. 実施内容	1
4. 評価	5
5. 今後の課題	6
II. 認知症看護認定看護師教育課程 フォローアップ研修	6
III. 感染管理認定看護師教育課程フォローアップ研修	6
IV. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	6-9
1. 目的	6
2. 実施状況	6
3. 実施内容	6
4. 評価および今後の課題	8
V. 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」	9-14
1. 目的・目標	9
2. 実施状況	9
3. 実施内容	9
4. 評価	11
VI. 石川県看護教員現任研修事業	14-16
1. 目的・目標	14
2. 実施状況	14
3. 実施内容	15
4. 評価	15
5. 今後の課題	16
VII. 地域貢献	16-17
1) 高齢者施設等における感染防止対策事業	16
2) 新型コロナウイルス感染対策マニュアル(冊子)作成	17
3) 新型コロナウイルス感染症施設に対する支援	17

I. 感染管理認定看護師教育課程

1. 目的

- 1) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力を育成する。
- 2) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる能力を育成する。
- 3) 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる能力を育成する。

2. 実施状況

【期間】

令和2年7月7日（火）～ 令和3年2月10日（水）

【履修生数】

32名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	男性 14名 女性 18名
平均年齢	39.4（27～53）歳
所属施設の所在地	石川県：10名、富山県：9名、福井県：1名、愛知県：1名、岐阜県：1名、新潟県：1名、滋賀県：2名、京都府：3名、大阪府：1名、奈良県：1名、広島県：2名

2) 入学時の臨床経験年数と感染管理に関する実務経験年数（表1）

表1 入学時の臨床経験と感染管理に関する実務経験

	臨床経験	感染に関する実務経験
3～5年	1	25
6～10年	9	6
11～15年	9	0
16～20年	8	1
21～	5	0
平均経験年数	13.9年	5年

3. 実施内容

【教育課程の実施状況】

感染管理認定看護師教育課程の年間スケジュールは表2に示す。

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表3に示す。

表2 年間スケジュール

項 目	期 間
開講式 (オリエンテーション)	7月 7日 (火) 7月 7日・8日 (水)
授業開始	7月 9日 (木) ~
夏季休業	8月 13日 (木) ~ 8月 16日 (日)
実習期間	10月 26日 (月) ~ 11月 27日 (金)
冬季休業	10月 26日 (土) ~ 1月 3日 (日)
修了試験	1月 20日 (水)
修了式	2月 10日 (水)

表3 授業科目と時間数

授 業 科 目	時 間 数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	15	120
	2. 医療安全学：医療安全管理	15	
	3. 医療安全学：看護管理	15	
	4. 臨床薬理学：薬理作用	15	
	5. チーム医療論（特定行為実践）	15	
	6. 相談（特定行為実践）	15	
	7. 指導	15	
	8. 医療情報論	15	
専門基礎科目	1. 感染管理学	15	120
	2. 疫学と統計学	30	
	3. 微生物・感染症学	60	
	4. 医療管理学	15	
専門科目	1. 医療関連感染サーベイランス	45	120
	2. 感染防止技術	30	
	3. 職業感染管理	15	
	4. 感染管理指導と相談	15	
	5. 洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	15	
学内演習	90	270	
臨地実習	180		
総時間数	630		

【担当教員】

主任教員：日向千恵子（講師）

担当科目：医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）、感染管理学、医療関連サーベイランス、感染防止技術、職業感染管理、感染管理指導と相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント、学内演習、臨地実習

専任教員：池田富三香（特任准教授）

担当科目：医療安全学：医療倫理、医療安全学：看護管理、チーム医療論（特定行為実践）、学内演習、臨地実習

【非常勤講師】

専門基礎科目、専門科目は感染管理分野における第一線の感染症専門医、各専門医分野の大学の教授・准教授・講師、各専門医分野の医師や看護師、北陸3県の感染管理認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。非常勤講師と担当科目一覧を表4に示す。

表 4-1 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
浅見 洋	石川県立看護大学	医療安全学：医療倫理
池田 富三香	石川県立看護大学看護キャリア支援センター	医療安全学：医療倫理
鷺尾美智代	独立行政法人国立病院機構医王病院	医療安全学：医療安全管理
寺井梨恵子	石川県立看護大学	医療安全学：医療安全管理
中村 隆	中村・平井・田邊法律事務所	医療安全学：医療安全管理
山崎真由美	金沢大学附属病院医療安全管理部	医療安全学：医療安全管理
丸岡 直子	石川県立看護大学	医療安全学：看護管理
中出 順也	金沢大学付属病院感染制御室	臨床薬理学：薬理作用
池田 浩幸	石川勤労者医療協会城北病院	臨床薬理学：薬理作用
阪上 学	国立病院機構 金沢医療センター	臨床薬理学：薬理作用
藤村 政樹	国立病院機構 七尾病院	臨床薬理学：薬理作用
林 一美	石川県立看護大学	チーム医療論（特定行為実践）
細田 清美	福井済生会病院	チーム医療論（特定行為実践）
武山 雅志	石川県立看護大学	相談（特定行為実践）
石川 倫子	石川県立看護大学	指導
平居 貴生	石川県立看護大学	医療情報論
稲垣 時子	国立がん研究センター東病院	医療情報論
吉村 光弘	公立能登総合病院	医療情報論
垣花 涉	石川県立看護大学	医療情報論
竹村 美和	滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部	感染管理学
今井 秀樹	石川県立看護大学	疫学と統計学
藤田 烈	国際医療福祉大学	疫学と統計学
新川 晶子	石川県立高松病院	微生物・感染症学
松村 康史	京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学	微生物・感染症学
多賀 允俊	金沢医科大学病院	微生物・感染症学
坂井優喜子	金沢大学附属病院	微生物・感染症学
金谷 和美	金沢医科大学病院中央臨床検査部	微生物・感染症学
飯沼 由嗣	金沢医科大学	微生物・感染症学
渡邊 珠代	石川県立中央病院 免疫感染科	微生物・感染症学
田中 達朗	金沢医科大学 泌尿器科学	微生物・感染症学
西 耕一	石川県立中央病院 呼吸器内科	微生物・感染症学

表 4-2 非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
森岡 浩一	福井大学医学部	微生物・感染症学
中積 泰人	金沢メディカルステーション	微生物・感染症学
土島 睦	金沢医科大学	微生物・感染症学
笹川 寿之	金沢医科大学	微生物・感染症学
宮川須美子	東海北陸厚生局石川事務所	医療管理学
小林 勝義	能登北部保健福祉センター	医療管理学
中村 真寿美	金沢医科大学病院	医療管理学
高山 一夫	京都橋大学	医療管理学
野田 洋子	金沢医科大学病院感染制御部	医療管理学
青木 雅子	富山大学附属病院 感染制御室	医療関連感染サーベランス
森兼 啓太	山形大学医学部附属病院	医療関連感染サーベランス
西原 寿代	国立病院機構金沢医療センター	医療関連感染サーベランス
河奥 辰徳	公立松任石川中央病院 安全対策室	感染防止技術
上島 雅子	浅ノ川総合病院 地域連携室	感染防止技術
鍛冶 佳美	JCHO 金沢病院	感染防止技術
浦嶋 ひとみ	石川県済生会金沢病院	感染防止技術
西村 一美	感染管理認定看護師／福井大学医学部附属病院	感染防止技術
近藤 祐子	感染管理認定看護師／石川県立中央病院	感染防止技術
嶋田 由美子	感染管理認定看護師／公立つるぎ病院	感染防止技術
赤尾 康子	加賀市医療センター	感染防止技術
北川 洋子	訪問看護ステーションひよどり富山	感染防止技術
清水 直美	富山県立中央病院 医療安全部感染対策室	感染防止技術
森河 裕子	金沢医科大学看護学部	職業感染管理
江波 麻貴	浅ノ川総合病院 感染対策室	職業感染管理
架間 ゆき子	金沢市立病院 感染対策室	職業感染管理
池田 恵子	城北病院 医療安全管理室	洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント
小林 宏光	石川県立看護大学	感染管理プログラムに必要な知識
今井 美和	石川県立看護大学	微生物検査演習
片山 雪絵	浅ノ川総合病院	微生物検査演習
所 正治	金沢大学医薬保健研究域医学部 寄生虫感染症制御学	微生物検査演習

【臨地実習施設】

看護実践実習施設は表 5 に示す。

表 5 看護実践実習施設と実習指導者

	病院名	実習指導者
1	金沢医科大学病院	野田洋子
2	国立病院機構金沢医療センター	西原寿美代
3	金沢市立病院	奥野 由美
4	医療法人社団浅ノ川総合病院	江波麻貴
5	地域医療機能推進機構金沢病院	岩島さやか
6	白山石川医療企業団公立松任石川中央病院	河奥辰徳
7	白山石川医療企業団公立つるぎ病院	嶋田由美子
8	公立能登総合病院	澤田明美
10	福井大学医学部附属病院	西村一美
11	福井赤十字病院	坪田マキ
12	国立大学法人富山大学附属病院	青木雅子
13	富山赤十字病院	亀山礼子
14	富山県立中央病院	清水直美
15	市立砺波総合病院	村本由子

4. 評価

【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習においては、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。修了生 32 名は、2021 年 10 月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。

履修生は教育課程において多くの学びを得た。教育課程に関する意見については、アンケートを実施して把握した。

【履修生の学んだ内容（一部抜粋）】

1) サーベイランス

- ・自施設では医療関連サーベイランスの実施はなく不安だったが、実習でデータ分析・フィードバックを行い、自信につながった。
- ・エビデンスの必要性が理解できた。
- ・データ収集を行う上で、現場スタッフの日々の感染対策を把握することができた。
- ・フィードバックの仕方が、現場スタッフのモチベーションに影響することを学んだ。

2) システム

- ・病院全体を念頭に管理していく様や思考・マインドなど、CNIC と一緒に行動する中で明らかになり、役割や姿をイメージでき管理者の視点を学べた。
- ・感染管理を行うためには、まず人を育てることが重要であることを学んだ。

3) 指導

- ・指導を行う際のポイント（時間・指導環境・開催回数・相手の背景・話し方・文字から受ける印象やレイアウトなど準備の重要性）。

5. 今後の課題

今年度はコロナ禍の影響により、開講より1か月間は遠隔会議システム（Zoom）を使用し、講義やグループワークなどを行い、8月より対面授業が開始できた。次年度もコロナ禍の影響を考慮し、開講前に履修生のICT環境を調査し、支援を行っていきたい。また実習に関して、冬の流行性疾患の時期と新型コロナウイルスの再流行を危惧し、予定より2週間開始時期を早めたことにより、実習施設での経験を積む事ができた。次年度も実習開始日は今年度の日程で行っていく。

今年度は、履修生の殆どが教育課程期間中、自施設に戻り（電話などでも）自施設の感染管理に関する情報収集が出来ない状況であった。そのため自施設の現状と課題の理解が不十分であり、実習中での「見る」「聞く」視点を深めることに時間を要し、また感染管理プログラム作成に難渋していた。次年度は、そのような事にならないよう、入学前の事前課題内容（施設の現状把握のための情報収集項目）を検討し修正していく。

II. 認知症看護認定看護師フォローアップ研修

III. 感染管理認定看護師フォローアップ研修

今年度のフォローアップ研修は、コロナ禍のため実施できなかった。
次年度、各認定教育課程の修了生代表で話し合い、修了生のニーズに沿った研修を企画していく。

IV. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

1. 目的

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

2. 定員および研修方法

新型コロナウイルス感染症拡大のため、研修はすべてオンラインで実施した。定員を例年より10名増やして40名とし、副看護師長以上の看護職を対象とした。

3. 実施状況

石川県内43施設から79名の応募があった。原則として1施設1名の参加とし、41施設から46名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均25年、職位は看護部長（管理者）7名、副看護部長1名、看護師長16名、副看護師長・主任等22名、であった。なお研修最終日のシンポジウムは公開講座とし、120名が参加した。

4. 実施内容

令和2年11月26日、11月27日、12月4日、12月5日に下記の内容で、全て会議ソフト「zoom」による双方向性のオンライン講習とした。オンライン講習の中でグループワークも実施した（表1）。

表1.研修日程と内容

日 時	研修内容	講 師
11月26日(木)		
10:00～	「Zoom」の活用方法と演習	石川県立看護大学 池田 富三香
13:00～16:00	地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ①	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
11月27日(金)		
9:00～12:00	地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ②	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
13:00～16:00	看護管理者のための病院経営データを活用した看護管理 自部署の課題への取り組み	滋賀医科大学医学部附属病院 副院長 看護部長 西村 路子
12月4日(金)		
9:00～12:00	組織課題の達成にむけて ー組織分析の意義と手法ー	金沢医科大学病院 キャリア支援センター課長 高見 知世子
13:00～16:00	看護管理上の課題達成にむけた戦略 ー交渉術ー	
12月5日(土)		
9:30～12:00	組織における倫理的課題	常磐大学 特任教授 吉田 千文
13:30～15:30	【公開講座】シンポジウム with コロナ時代における看護管理	金沢市立病院 看護部長 中西容子 浅ノ川総合病院 感染管理認定看護師 上島雅子 千木病院 看護部長 高田 千嘉 白山つるぎ訪問看護ステーション 管理者 澤 久美子 公立つるぎ病院 感染管理認定看護師 嶋田由美子

4. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容の理解と活用 (図 1)

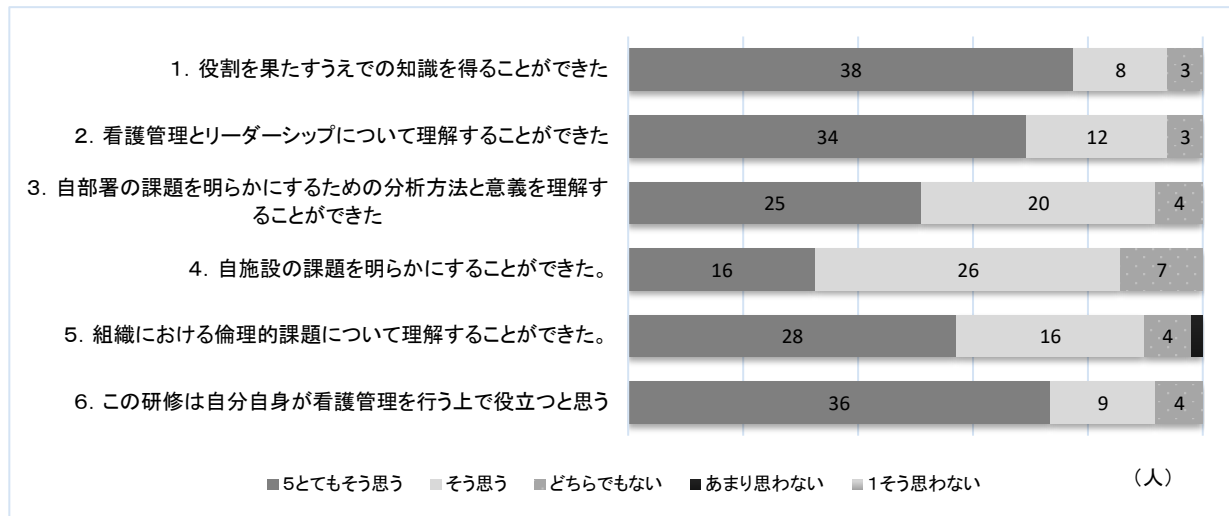


図1. 研修内容の理解と活用

(2) 自由記載より (抜粋)

- ・今年他研修に参加できませんでしたので、とてもいい機会での研修の開催がありありがたかった。何となくの知識が、研修で整理して学習でき、今後の実践に十分に活かしていきたいと思えます。4日間少し足りない、もう少し研修、講義をきかせていただきたい気持ちも残りますが、今後の自身の課題として学び続け、実践につなげていきたいと思えます。
- ・看護管理について考える機会になり、有意義な時間でした。自分の職種から患者さんだけでなく、学生との関係・関わりについても再度考える機会となりました。個人的には、問題解決の「空・雨・傘」についてももう少し聞きたかったと思っています。
- ・師長からの勧めで参加しましたが、参加者で師長の方からの現場での悩みや管理者の立場から大変な思いをされていることを改めて実感したとともに同じような悩みがあるんだとわかりました。主任の立場で参加しましたが、管理者である師長の補佐やスタッフのことも研修に参加したことで見方が変わりました。組織の中での立場や看護師配置数の計算の仕方、要望書の作成など改めて知ったことや初めて知ったこともあり中身の濃い研修になりました。今後研修で得た知識を思い起こしながら業務していきたいと思えます。
- ・とても解りやすかったです。データは口ほどに物を言うという言葉が印象的でした。苦手とする所でしたが、頑張っていきます。
- ・看護管理の勉強が初めてで理論や考え方分析の仕方などとても参考になる事ばかりでした。管理者として求められている事自分に足りないところに気づけました。解決方法はまだまだ自分の身になっていませんが、考える物差しと管理者としての役割が解った気がしています。良い人材が離職して自分の管理者としての資質に問題があるのではないかと悩んでいるところでしたので大変有意義な研修となりました。
- ・得られた知識が多々あり、有意義な4日間を過ごさせていただきました。これからの自分自身にとってとても糧になります。他の方の話もいろいろ聞く事ができ、刺激にもなり、モチベーションを上げてこれからの頑張ることが出来ます。
- ・素敵な先生方の講義を聞いて良かったです。これから役立てていきたいと思えます。ZOOMを経験することもできて良かったです。
- ・ネット接続が不安定で聞けなかったり、見られなかったりグループワークが出来なかったりした

のが、とても残念でした。やはり、リモートでなく、従来の研修形式を今後希望します。(COVIDが落ち着いたら)

2) 全体的な評価

本事業は平成27年～本年度の6年にわたり継続している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、県内でも多くの研修が中止になった。例年より時期を遅らせて、オンラインですべての研修を計画した。そのためか、申し込み人数が例年の2倍超となり、看護師の研修ニーズの高さを改めて実感した。また、認定看護管理者教育も徐々に浸透し、受講対象者を看護師長以上から、副看護師長（主任等）以上に変更したことも申し込み人数の増加の要因ではないかと考えられた。講義は、管理の基礎を念頭に組み立て、オンラインであってもグループワークやグループ発表を取り入れた演習を行った。また現場で悩んでいるコロナ禍における看護倫理や看護管理について内容に盛り込んだ。これらのことから、受講生は満足度が高く有意義な事業であったと捉えたと考えられる。



公開講座 配信の様子(中西容子金沢市民病院看護部長)

V. 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

1. 目的・目標

【目的】

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

【目標】

皮膚・排泄ケア看護に関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況より、解決策を考えることができる。

2. 実施状況

石川県内25施設から31名が受講した。受講者の所属施設は病院28名、訪問看護ステーション2名、特別養護老人ホーム1名であった。所属施設の所在地は加賀地区24名、能登地区7名であった。

3. 実施内容

令和2年11月7日・22日、12月5日・20日、令和3年1月23日の計5日間、ストーマ・創傷・失禁ケアの3分野に関して、オンラインにてグループワークを交えながら実施した(表1-1, 2)。

表 1-1. 研修日程と内容

日時	分野	科目・講師
令和 2 年 11 月 7 日 (土)		
9:10~9:30		看護の動向について
		石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ主任技師 室屋 みゆき
9:40~10:30	Wound	褥瘡のリスクアセスメント
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
10:45~12:00	Wound	体圧管理
		金沢大学 新学術創成研究機構 教授 須釜 淳子
13:00~14:15	Wound	創傷治癒と DESIGN-R
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
14:30~15:45	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法
		金沢医科大学 名誉教授 川上 重彦
11 月 22 日 (日)		
9:00~9:45	Ostomy	ストーマケアの基礎
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
10:00~11:15	Ostomy/ Continenence	泌尿器ストーマと失禁の管理
		金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
11:30~12:10	Wound	スキンケア
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
13:00~14:15	Ostomy	消化器ストーマと術後管理
		金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
14:30~15:45	Ostomy	瘻孔管理
		小川医院 院長 小川 滋彦
12 月 5 日 (土)		
9:00~10:15	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア
		金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 小西 千枝
10:25~11:00	Ostomy	ICT を活用したストーマケア計画
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
11:10~12:10	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア
		公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
13:00~14:15	Wound	栄養管理とアセスメント
		芳珠記念病院 栄養管理室 管理栄養士 坂下 理香
14:30~15:45	Continenence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
12 月 20 日 (日)		
9:00~10:15	Continenence	失禁対策
		公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
10:30~11:45	Wound	下肢の潰瘍のアセスメントとケア
		石川県済生会金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 細田 夕子
13:00~14:15	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択
		JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹

表 1-2. 研修日程と内容

日時	分野	科目・講師
14:30～15:45	Wound	褥瘡のリハビリテーション あっとほーむな訪問看護ステーションやまと 理学療法士 神野 俊介
令和3年 1月23日(土)		
9:00～9:50	Wound	糖尿病のフットケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
10:00～10:50	Wound	MDRPU(医療関連機器圧迫創傷) 金沢医科大学 看護学部 准教授 皮膚・排泄ケア認定看護師 木下 幸子
11:00～12:00	Wound	褥瘡のケア計画 1 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、紺家 千津子
13:00～14:00	Wound	褥瘡のケア計画 2 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、紺家 千津子
14:15～15:00	Wound/ Ostomy/ Continence	困っている事例の検討 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、紺家 千津子
15:15～15:45	Wound/ Ostomy/ Continence	皮膚・排泄ケア看護の近未来 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学分野 教授 真田 弘美

4. 評価

1) 受講生のアンケートによる評価

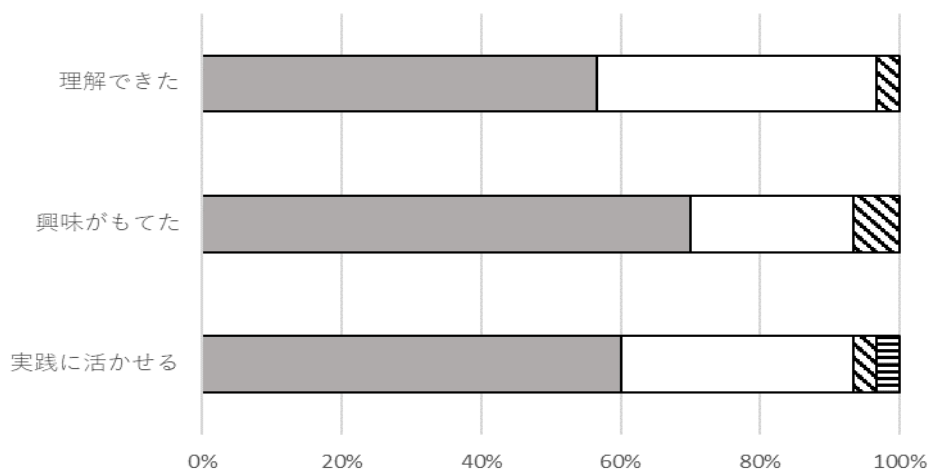
受講者 31 名中 30 名 (96.8%) より回答を得た。

(1) 受講者の背景

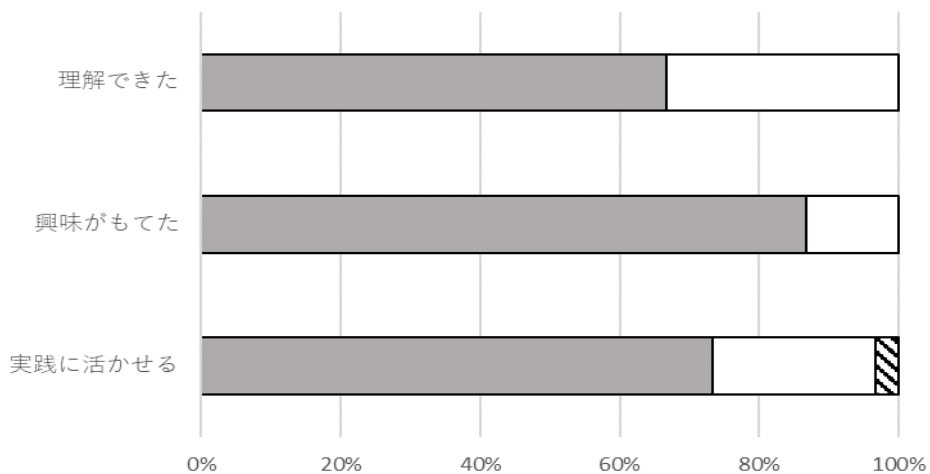
アンケートに回答した受講者の看護師経験年数は平均 16.3 年、所属施設は 300 床以上の病院 7 名、100～299 床の病院 11 名、99 床以下の病院 9 名、訪問看護ステーション 2 名、特別養護老人ホーム 1 名であった。オンラインによる講義やセミナーなどの受講経験者は 7 名 (23.3%)、未経験者は 23 名 (76.7%) であった。

(2) 各分野における受講者の評価 (図1)

① ストーマケア分野



② 創傷ケア分野



③ 失禁ケア分野

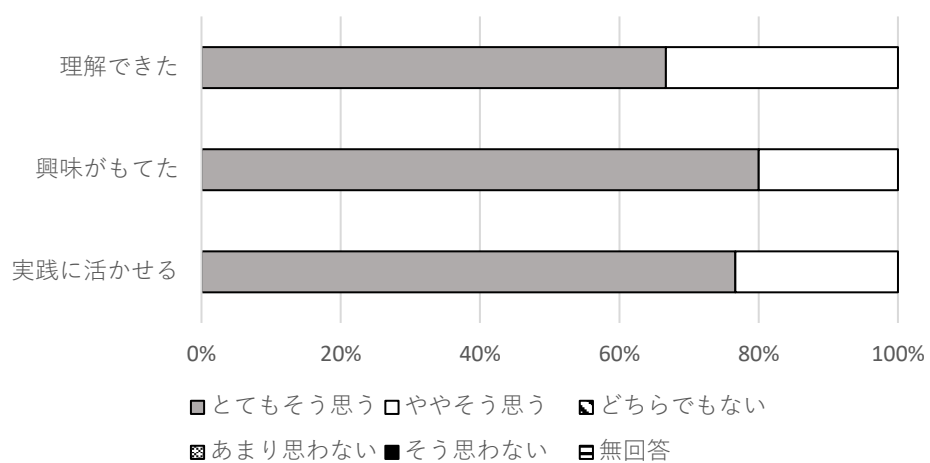


図1 各分野における受講者の評価

(3) オンライン講義の評価 (図 2, 3)

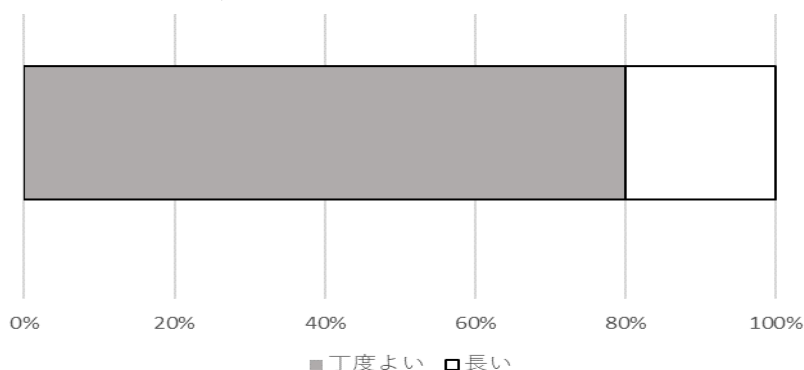


図 2 1日におけるオンライン研修時間の適切さ

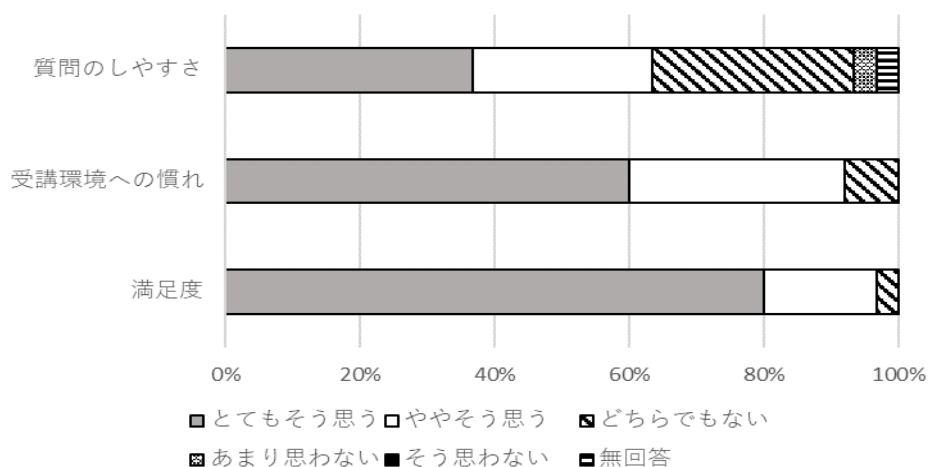


図 3 オンライン講義における質問のしやすさ、受講環境への慣れ、満足度

(4) 自由記載より (抜粋)

【オンライン講義に関して】

- ・ Zoom 操作方法についても事前に丁寧に教示いただけたので、ストレスなく受講ができた。
- ・ オンライン研修は初めてでしたが、会場研修より講師の先生方が近くに感じた。
- ・ オンライン研修は、大雪でも移動の心配が不要なためとてもありがたかった。
- ・ 質問時間を多く取っていただき、講義内容や現場で悩んでいることなども確認できて良かった。

【受講した感想や学び】

- ・ 研修内容は幅広く、最新情報を知ることができたため大変勉強になり、参加して良かった。
- ・ 資料も事前に頂けて、大まかな内容を知った上で話を聞いたのは良かった。
- ・ 「これでいいのかな？」と不安をもちながらケアをしていたが、根拠あるケア方法を講義で聞き、さらに受講者との対話からもケア方法を聞くことができたため、今後のケアに活かせる。
- ・ この研修から、皮膚・排泄ケアの分野の一つ一つをもっと詳しく知り、経験をして、自信をもって看護・教育ができるようになりたいと思った。
- ・ 研修で学習したことを、病棟スタッフに浸透できるように支援していきたい。
- ・ 元々皮膚・排泄ケア分野について興味はあったが、研修を通してより一層興味をそそられた。今後、学会に参加するなどして理解を深めていき、同僚にも何か伝えられるようになりたいと思った。

2) 全体的な評価と課題

受講生 31 名全員が、8 割以上を受講し修了認定証が交付された。

本研修は、本センターでは 2 回目の開催で、今回はコロナ禍の状況を鑑みオンライン研修とした。受講者の方々は、初めてのオンラインによる研修参加になると想定されたため、研修日程とは別日にオリエンテーションを行った。参加方法などについては、事前に資料を送付し、オリエンテーション時に発言方法、出席の取り方などの操作が可能かを確認した。また、参加者一人ずつが、自己紹介とこの研修会に参加した理由や学びたいことなどを話していただき、受講者同士も話しやすいよう配慮した。なお、全てオンライン研修としたため、講義中に講師による通信トラブルがあった場合も想定し、予備日も設けたがトラブルなく予定通り開催ができた。

研修にあたっては、講師の協力を得て事前に講義資料を一冊のテキストとして配布した。また、演習も受講者個々が行えるよう、演習用品も送付し、講義中にその用品を手にとってもらいながら解説をした。その結果、受講生より全 3 分野の理解・興味・実践への活用の評価は、いずれも「とてもそう思う」と「そう思う」を併せると前年の評価より高い 9 割を超えていた。したがって、オンラインではあったが、満足度の高い研修であったと考えられる。

次年度も、受講生の学修のニーズを満たし、かつ最新知見等も組み込みながら開催したいと考えている。



講義の様子

VI. 石川県看護教員現任研修事業

Covid-19 感染症により、病院における看護学実習が実施できなくなった。そのために実習目標を達成できるオンライン教材を開発する必要性が高まり、その看護教員のニーズに応える研修を実施した。

1. 目的・目標

【目的】

Covid-19 感染症の感染対策として、病院実習を最小限にした看護学実習の再構築と、それに伴い、臨地により近い学びを得るためのオンライン授業の工夫を石川県内の看護教員で共有する。

【目標】

- 1) オンラインによるシミュレーションーリフレクション学習モデルを作成し、看護教員と共有する。
- 2) 病院実習を最小限にした看護学実習の再構築を共有し、自校への実習課題につなげる。

2. 実施状況

	10/10	10/24
受講者数	26 名	20 名

3. 実施内容

【目標1）に対する実施計画】

表1. 研修内容と講師

日時	内容	実施者	備考：
10/10（土） 10:30～12:00 （Zoomにて） 限定20名	石川県内看護教員との共有 1.オンラインで行う多重課題SR学習モデルの紹介 2.実際に体験した学生の学び 3.実際に指導した教員の意見 4.意見交換	進行：石川倫子 紹介：寺井梨恵子 三輪早苗 学生：未定 教員：田村幸恵 瀬戸清華	
2020.10.10～ 2021.3.31 （支援期間）	オンラインで行う多重課題SR学習モデルの利用 1. 学生への学習資料の提供 2. オンラインで行う多重課題SR学習モデルの活用方法の支援	担当：石川倫子	教育機関から相談があった場合

【目標2）に対する実施計画】

日時	内容	実施者	備考
10/24（土） 10:30～12:00 （Zoomにて） 限定20名	石川県内看護教員との共有 1.実習内容・方法の構築 1) 統合実習編 2) 基礎看護学実習編 2.意見交換	進行：池田富三香 紹介：石川倫子 寺井梨恵子 田村幸恵 瀬戸清華 三輪早苗	

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

<オンラインで行う多重課題SR学習モデル>

- ・映像がリアルで引き込まれた。学生も入りこめるほどの内容だと感じ、コロナ禍にあってもリアルに近い多くを学ぶことができると改めて学んだ。
- ・リフレクトモデルについても学べ、現在取り組んでいるリフレクションについて再考していきたいと思った。
- ・学生が安心して優先順位やタイムマネジメントを学ぶためには何が必要なのか、改めて考える機会となった。自分が学習者としての体験をすることで、とても緊張した。どこかで正解を探さないといけないという気持ちがあった。また、「自由に考えを述べ合い、対話すること」はそれだけでも汗がでる。学生の気持ちが少し体験できた。各自の価値観・看護観がにじみ出てくる優先順位・タイムマネジメントであることに気づかされ、倫理的な側面にも触れる学習課題の奥深さを感じた。
- ・当校でも統合実習に行く前の夏季休業中にいつも多重課題の演習を行っている。紙上事例を提示して考えたり学生達同士で実際やってみたりしている。オンラインで正に自分が体験しているかのような動画を見て、気づき、優先順位をどう考えていくかという思考、臨床判断を鍛えていくためにもとても有効だと感じた。答えではなく、考え方を学んで行けるようにしていきたいと感じた。

<実習内容・方法の構築>

- ・様々な制限がある中、いかに学生の学びを深めさせるかが課題だが、臨地へ行けない状況でもより深く学ぶことがわかった。事前の学習、学び合える環境、学生の意欲など教員側で整えていくことの

重要さを実感した。

- ・総合実習の学習内容を学生が、自ら抽出する点は、学生自身が実習目標を基礎する機会にもなり、主体的に臨めるため、参考にしたい。
- ・基礎看護学実習Ⅱにおいては新カリにもつながり、生活者という視点から導入するよい機会になる。在宅の場も広がっているのを改めて考える機会になった。
- ・改めて学生自身が何を学びたいのか、それぞれが明確にすることで学びの拡張や深化につながっていくと感じました。実習＝病棟で実践すると考えがちですが、方法を工夫することで学べることも多くあり、可能性は広がると感じる機会となった。
- ・自分の頭が、実習先（病棟）ありきになっていたもので、ちがった形でも何をどう学ばせるのかを考えて行うことが必要であることを学んだ。学生の力を信じることも大切だと学んだ。
- ・学内の代替演習で何よりも受持患者の体をイメージ化する事が難しく、同じ疾患の患者 DVD を見せたりしたが・・・Zoom でリアルな患者さんに関わることで、理解が深まるのだととても参考になった。

【全体評価】

Covid-19 感染症の感染対策として、病院実習を最小限にした看護学実習の再構築と、臨地により近い学びを得るためのオンライン授業の工夫を看護教員で共有した。上記の示す受講生の学びから互いの知恵から学び合うことができ、目標は達成できたと考える。

5. 今後の課題

Covid-19 感染症の感染対策により、遠隔による教育方法は浸透してきた。一方で対面でなければ学べない教育内容も明らかになった。これらを融合しながら、どのように学生が主体的に学ぶことができるのかその教育方法を探る研修を企画することが課題である。

VII. 地域貢献

1) 高齢者施設等における感染防止対策事業

目的：全国の高齢者施設や障がい者施設で深刻なクラスターが発生していることから、これらの施設における感染予防対策や感染時の初動対応について支援する

事業概要：石川県の補正予算をうけ、看護大学教員や感染管理認定看護師教育課程の非常勤教員らとともに動画作成をおこない、以下の内容を HP にアップした。

1. 施設へのメッセージ 教育媒体の目的・活用
新しい生活様式の考え方 [HD フルHD] 約 3 分
2. わかりやすい新型コロナウイルスの基礎知識
 - (1) 新型コロナウイルス感染症の基礎知識 [HD フルHD] 約 10 分
 - (2) 新型コロナウイルス感染徴候の見方 [HD フルHD] 約 8 分
 - (3) 類似疾患との違い [HD フルHD] 約 6 分
3. わかりやすいスタンダードプリコーション（標準予防策） 標準予防策の基本 [HD フルHD] 約 16 分
4. 施設管理と利用者のケア
 - (1) 感染予防編 [HD フルHD] 約 16 分
 - (2) 初動対応編 [HD フルHD] 約 16 分
 - (3) 利用者が濃厚接触者となった場合の対応 [HD フルHD] 約 9 分

5. 施設職員の体とこころの健康

(1) 新しい生活の過ごし方 [HD フルHD] 約8分

(2) 職員のこころの健康 [HD フルHD] 約5分

全体版 (1. ～5. (2) を1本につなげたもの) [HD フルHD] 約1時間35分

2) 新型コロナウイルス感染対策マニュアル(冊子)作成

高齢者施設・障がい者施設のための新型コロナウイルス感染対策マニュアルとして、看護大学教員や感染管理認定看護師教育課程の非常勤教員らとともに冊子作成をおこなった。それらは石川県内及びかほく市の関係施設に配布された。

3) 新型コロナウイルス感染症施設に対する支援

石川県看護協会からの依頼を受け、6月に感染管理認定看護師教育課程教員2名が石川県内医療施設に2泊3日看護ケア支援を行った。